

高 1 選抜東大英語

高 1 東大英語



17章 関係詞4

要点

■ 確認問題1

解答

- (1) 習いたい言語を（全部）書いてください。
- (2) 彼はタクシーではなく歩いてそこに行くように言われ、そのアドバイスに従った。

■ 確認問題2

解答

- (1) 好きなものをお取りください。
- (2) どんなにがんばっても、まだやっていないことはあるものだ。

問題

【1】

解答・解説

- (1) イ「私は彼がまったく好きではない。ここに来るといつも、彼は私と口論を始めるからだ。」
- not ~ at all 「まったく～でない」
 - argue with ~ 「～と口論〔議論〕する」
- (2) ウ「彼は聞こうとする人なら誰にでもその話をした。」〔関係代名詞の格は主節とは無関係であり、関係代名詞が導く節の中で主語になっているので、whoever を用いる。〕
- (3) エ「たとえ誰がその噂を繰り返して言っても、信じてはいけない。」〔空所には repeats の主語になるものがくる。アの which を入れても意味が通じない。〕 (no matter who = whoever)
- (4) ウ「彼は本当に強情だ。私が何を言っても絶対に聞こうとしない。」
- stubborn 「頑固な、強情な」
 - suggest 「～を提案する、勧める」
- (5) エ「どちらの道を行っても、時間までにはそこに着くでしょう。」〔譲歩を表す複合関係形容詞。〕
- in time 「(～に) 間に合って、遅れずに」 cf. on time (時間通りに)

【2】

解答・解説

- (1) You should visit Boston (no matter how short your visit may be). 《you が不要》〔no matter how の後は形容詞か副詞がくる。ここでは be が与えられているので、short は形容詞、visit を名詞と考えて、your visit という主語を作る。仮に、short を副詞、visit を動詞と考えて、no matter how short you may visit とすると、your と be の2語が不要となり、また、visit は「訪問する」の意味では他動詞が普通なので、目的語が選択肢にない。〕
- (2) (Come whenever it is convenient for you). 《are が不要》
- it is convenient for ~ 「～にとって都合がよい」〔convenient は人を主語にとらないので、you are convenient とはできない。〕
- (3) The politician (shook hands with whomever he met) on the street. 《whoever が不要》
- 〔その政治家が通りで会った誰とでも〕なので、met の目的語となる whomever を用いる。〕
- shake hands with ~ 「～と握手する」〔hands と複数形になることに注意。〕
- (4) Anyone (who has to deal with young children soon learns too much sympathy is a mistake). 《whoever が不要》〔anyone が文頭に与えられているので who を用いる。〕

【3】

解答・解説

A.

what 「彼は持っていたすべてのお金を私にくれた。」[what は「…ところの(すべての)もの」という意味の関係形容詞用法で用いられている。]

B.

イ 「私はその子供を見るといつも、その子の父親を思い出す。」

ア [with always が without であれば、「…しないで～することはない」→「～すると必ず…する」となり、問題文と同じ意味になる。]

イ ○ remind ~ of … 「～に…を思い出させる」

ウ [文法的に不可。enable ~ to do と to 不定詞がくる。]

エ [文法的に不可。]

【4】

解答・解説

(1) しばらくの間病気で寝ていたことのある人なら誰でも、どんなに金持ちで成功していても、健康でない限り幸せになることはできないということを知っている。

(2) 思考は自由であるということは、普通によく言われることだ。人はどんなことでも、それを隠している限り、考えることを妨げられることは決してない。

(3) 私は自分自身のアイデンティティを失うことに反抗した。私はありがちな存在には絶対になりたくなかったのだ。私は自分の興味を発展させ、それをやり抜き、それが私を導くどんな世界にも入っていくことによって、自分にふさわしいところを見出そうと決心した。

○ resolve to do 「…することを決心する」

○ rebel against ~ 「～に反抗する」

○ not ~ by any means 「どうしても～ない」

【5】

解答

「全訳」下線部(1), (2), (3)参照。

全訳

記者や編集者や報道局長は人間である。(1)彼らは、期待と不安、好き嫌い、といった個人的感情のために、報道内容に影響を与えることが多い。戦争孤児たちの窮状にひどく心を痛める記者もいるだろう。このような記者は孤児に対する自分の感情に視聴者が共感できるように、孤児の苦難を誇張するかもしれない。自分が好きな人物の悪い面を強調して見せるような出来事を軽く扱う記者もいるだろう。(2)テレビの報道局長は、ニュースによってスポンサー会社が怒ってそのテレビ局で宣伝するのをやめることを恐れて、安全ではない製品に関するニュースを中止することもあるだろう。

したがって、ニュースは単なる事実の羅列ではない。それはありえない。ニュース報道は政

治・金銭・個人的な好き嫌いについての感情によって影響される。(3)このような感情はニュースの報道の仕方と、視聴者の聞き方に影響を及ぼす。

注

- ℓ. 4 ○ exaggerate ～ 「～を誇張する」
○ hardship 「苦難」 これは plight の言い換え。
- ℓ. 5 ○ de-emphasize ～ 「～を重要視しない，軽く扱う」
- ℓ. 9 ○ color ～ 「～に影響を与える」

【6】

解答・解説

- (1) (a) sending (b) playing (c) have become (d) lost
- (a) send a text message 「テキストメッセージを送る」前置詞 by の後なので動名詞にする。
cf. Can I take a message? (伝言を承りましょうか。)
 - (b) play video games 「ビデオゲームをする」 (a)と同様に動名詞にする。
 - (c) 親指を長時間鍛えたことで親指は以前より強くて、器用になった。従って、「あることの結果として現在どうなっているか」を示す現在完了にする。
 - (d) 他動詞の過去分詞は「～された」の受動的意味を持ち、名詞を修飾する。
- (2) 「全訳」下線部(1)～(3)参照。
- (1) ○ 主語の代名詞 That は、前の文の内容を指す。
○ why は関係副詞で、先行詞の the reason が省略されている。
Ex. That is (the reason) why we left early in the morning.
(そういうわけで私たちは早朝出発したのです。)
- situations
↑
where older people use their index fingers
関係副詞の where は、「場所」ではない名詞を先行詞とすることもある。例えば、situation (状況), case (場合), point (点) は先行詞となる。
- この older は絶対比較級である。絶対比較級とは、比較の対象を明確に示すことなく、ただ漠然と程度が高いことを表す。
e.g. the younger generation (青年層), the older generation (年配層)
- (2) ○ As for ～ 「～に関しては、～はといえば」
Ex. We have plenty of jam. As for butter, we don't have much left.
(ジャムはたくさんあります。バターについては、あまり残っていません。)
- most of the time 「ほとんどいつも、しょっちゅう」ℓ. 9 の most of the time も同じく副詞として使われている。
- what they have lost の what は、関係代名詞ではなく、疑問代名詞である。第3段落の2文目以降で、失った技能の具体例として mental arithmetic と map reading が挙げられていることから、昔からある技能のうち「何を失ったのか」となる。
- (3) ○ With GPS in many cars : < with + 名詞 + 前置詞句 > で付帯状況を表す。

- little + 不可算名詞「(量・程度が) ほとんどない」
- GPS = Global Positioning System 「全地球測位システム」

(3)

- ア ○ *ℓ. 3 ~ 5* Young people have spent ~ and more skillful. ならびに, *ℓ. 7* Skillful thumbs are only ~ new technology を参照。
- イ × 本文にこのような記述はない。
- ウ × *ℓ. 12* As for the old skills, ~ what they have lost. に合わない。
- エ × *ℓ. 15* With GPS in many cars, ~ read a map. と矛盾する。
- オ ○ *ℓ. 16* Some researchers are concerned ~ old mental skills. に一致する。
 - be concerned about ~ 「~を心配している, 案じている」

(4) Whoever [Anyone who] knows how to read a map can find their way around.

- whoever (= anyone who) は, 「~する人は誰でも」の意味で名詞節を導く複合関係代名詞。
- find one's way around 「自分でどこへでも行ける」

全訳

玄関の呼び鈴を押すのにどの指を使うだろうか。その答えは年齢によって決まるであろう。30歳より上の人たちは、まず間違いなく人差し指を使って呼び鈴を押すだろう。しかしながら、30歳未満の人は、おそらく親指を使うだろう。若者はテキストメッセージを送ったり、ビデオゲームをすることで、長い時間を親指を動かすことに費やしてきた。そういった運動のおかげで、若者の親指は強く、また器用になった。(1)親指が以前よりも強く、器用になったので、年配の人たちが人差し指を使う状況でも若者は親指を使うことが多いのだ。

器用な親指は、新しい科学技術がもたらした多くの思いがけない結果の1つに過ぎない。つまり、現在の新製品は身体的技能だけでなく知的技能にも影響を与えている。たいてい人々は何が起きているのかに気付いていない。必要な時に自分の行動を少しずつ変えているからである。例えば、人が身につける新たな技能には、携帯電話でメールを送ったりすることや、オンラインでの飛行機の予約の取り方といったものがあるだろう。

(2)昔からある技能について言えば、ほとんどの場合人々は何を失ったのかさえ分からないのである。例えば、現在どれだけの人が暗算ができるであろうか。すべての職場やすべての電話やコンピュータに計算機が付いているので、暗算が必要とされることはめったにないのだ。失ってしまったもう1つの技能に地図で場所を調べることもある。(3)多くの車にGPSが装備されているので、地図の読み方を知る必要はほとんどない。

古くからの知的技能を失う結果を心配している研究者も中にはいる。例えば、もしGPSが機能しなくなったら、自分でどこへでも行けるだろうか。さらに重要なことは、すべての科学技術が崩壊することはあり得ない以上、科学者は我々の知能が今後どうなるのかに興味を持っている。(計算機やGPSの場合と)同じように頭を使うことがなければ、我々の知能はどうなるのであろうか。

注

- ℓ. 3* ○ spend + O + ...ing 「...するのに時間を使う」
- ℓ. 4* ○ thanks to ~ 「~のおかげで, ~のため」

- ℓ. 7 ○ unexpected 「予期しない, 思いがけない」
 ○ in fact 「(前言により詳しい説明を付け加える場合に用いて) つまり, 実際に」
Ex. It was a very hot day. In fact, it was 40 °C.
 (とても暑い日でした。事実, 40度もありました。)
- ℓ. 8 ○ influence ~ 「~に影響を及ぼす」
- ℓ. 10 ○ The new skills (which) they develop
 ○ develop ~ 「~を発現させる; ~を持ち始める」 < development
e.g. develop a dress sense 「服のセンスを身につける」
 ○ include ~ 「(全体の中の一部として) ~を含む」 ↔ exclude
- ℓ. 11 ○ make a reservation 「予約する」
- ℓ. 13 ○ rarely 「めったに~しない」 (= seldom)
- ℓ. 14 ○ calculator 「計算機」
- ℓ. 17 ○ If GPS stopped functioning, for example, would anyone know how to find their way around? : 「あり得ない」と思われることを述べる仮定法過去の文。
- ℓ. 18 ○ unlikely 「ありそうもない, 起こりそうもない」 ↔ likely
 ○ wonder (about ~) 「~について知りたがる; ~にあれこれ思いをめぐらす」
- ℓ. 19 ○ no longer 「もう~しない (ではない)」 (= not ~ any longer)
Ex. She could no longer be trusted. (= She could not be trusted any longer.)
 (彼女はもはや信用されなかった。)

【7】

解答・解説

- (1) whomever → whoever 「この本を欲しい人には誰にでもあげよう。」 [関係詞は、その節の中で主語の働きをするので、主格にする。]
- (2) that は不要「この小説を読んだ人は誰も、深く感動させられないではいられなかった。」 [この場合は修辞疑問ではないので、that は不要。]
 ○ cannot (help) but *do* 「…せざるを得ない」 (= cannot help …ing)

添削課題

解答

- (1) The advantage will go to whoever finds the solution first.
- (2) Whatever happens, don't give up.
- (3) It takes two hours, whichever route you take.
- (4) I must start next Sunday, however heavily it snows.

18章 比較1

要点

■ 確認問題1

解答

Mary likes Nagoya best (in) (Japan).

= (Of) (all) (Japanese) (cities), Mary likes Nagoya best.

■ 確認問題2

解答

brought more food than she could eat

■ 確認問題3

解答

fewer cigarettes and drink less beer

■ 確認問題4

解答

by far the most talented soccer player in those days

■ 確認問題5

解答

(1) She can sing as well as her sister.

(2) You don't phone me as often as before.

■ 確認問題6

解答

(1) Try to become friends with as many people as possible.

(2) He was as cruel a leader as ever lived.

問題

【1】

解答・解説

- (1) イ「彼はこれまでに2つの小説を書いたが、2番目の方がずっと優れている。」〔2者の比較なので、比較級に the をつける。〕
- (2) イ「私の弟は私よりもかなり多くの良書を持っている。」
○ much more + 不可算名詞
○ many more + 複数名詞
- (3) ウ「君の助けはうれしいが、私は君にこれ以上迷惑をかけたくない。」〔程度を表す副詞 far の比較級は further。〕
○ cause ~ (=人) … (=事) 「~ (=人) に… (=事) をもたらす」
- (4) ア「私はドイツ語を少し話せるが、君ほどうまくは話せない。」
○ not as [so] ~ as … 「…ほど~でない」
- (5) ウ「その国では、1平方マイルの土地に1,100人もの人が住んでいる。」
○ as many as ~ 「~もの多くの」
○ on each square mile 「1平方マイルに」
- (6) イ「彼は昔よりも体重が少ない。」〔形容詞 heavy を修飾する副詞 little の比較級 less を選ぶ。〕
- (7) ア「このルールは、他の民族にとっても重要だが、日本人にとっても同じように重要であるのは明らかだ。」
○ obvious 「明らかな」
○ as ~ as … 「…と同様に~」
- (8) ウ「彼の妹は彼の歳の半分です。」〔「妹」だから、彼の年齢より若いはず。半分は half。〕

【2】

解答・解説

- (1) I think (nothing is so beautiful as the stars twinkling) in the sky.
○ nothing is so [as] … as ~ 「~ほど…なものはない」
- (2) He (is not so strong as he used to be).
○ not so [as] … as ~ 「~ほど…でない」
- (3) His salary is (double what it was) seven years ago. [what を加える]〔double は twice の意味で、the [one's] + 名詞や wh-節 の前に置く。〕
- (4) An engineer seeks (not so much to know nature as to use it).
○ not so much ~ as … 「~よりはむしろ…」(ここでは不定詞句の比較。)

【3】

解答・解説

(1) 彼は疲れており、(以前より) 老けて見えた。彼の顔には以前より多くのしわがあった。しかし、相変わらずあらゆる種類の事柄についてしきりに話したがった。

○ as + 原級 + as ever 「相変わらず…だ」

(2) どんな本を読むのかを見るよりもさらに「付き合う友人を見ればその人がわかる」ということわざがある。人間はその人自身やその人の考え方より、むしろその友人によってどんな人かが明らかになる。というのは、人間が自分の内面の気持ちを表すのは友人とのさまざまな関係の中においてであるからである。

○ saying 「ことわざ」 (= proverb)

○ be known by ~ 「~によってわかる (判断される)」

cf. be known to ~ (～に知られている)

○ even [比較級 more を強める副詞]

○ more than 「～以上に」

○ not so much ~ as … 「～というよりむしろ…」

(3) ある大手の銀行は、パートの主婦を雇えば、同じ仕事を正社員にやらせる場合の20～40%の経費で済むと推測している。より安上がりであるばかりか、主婦には別の利点もある。日本の家庭では家計をやりくりし、ほとんどの投資を決定するのは、たいてい女性である。

○ reckon that … 「…であると推測する」

○ it is ~ who [that] … 「…は～である」 [強調構文]

○ family finances 「家計」

○ investment 「投資, 出資」 < invest

【4】

解答・解説

その少女は食卓に料理を並べ、子供たちを暖炉の周りに座らせ、まるで空腹の小鳥のような子供たちに食べさせた。

○ spread 「(食卓に) ~ (=料理) を並べる」

本問の spread the table は、spread the table with the dishes (食卓に料理を並べる) の with the dishes が省略されたもの。

○ like so many 「まるで～のような」

本問の like so many は、them を修飾する形容詞句として用いられている。

【5】

解答

A.

- (1) 2日 (2) 運河ツアーに参加すること
(3) スペイン絵画の有名なコレクション (4) 今日の夕食

B.

- (1) He will visit it tomorrow afternoon.
(2) He said it was beautiful. [He said it was one of the nicest zoos he had seen. / He said it was much better than zoos in Japan.]
(3) He read about it [that] in the travel guidebook.

Script

CD 5-6

A : I'm going to stay here until the end of this week. Could you tell me where I should visit during the rest of my stay?

B : So you have two more days here. Why don't you visit the natural history museum? It's absolutely fascinating. Have you been there yet?

A : No, not yet. I'll go there tomorrow afternoon.

B : Well, you'll love it. And have you taken a canal tour? That's the best way to get acquainted with the city.

A : No, I haven't. But I hear that it's worth doing.

B : What about the zoo? Have you been there yet?

A : Oh, yes. That was beautiful. It's one of the nicest zoos I've seen, I think. Much better than zoos in Japan.

B : And if you are interested in art, you should visit the national art gallery. It has a famous collection of Spanish paintings.

A : Yes, I've read about that in the travel guidebook. I should try to get there while I am here.

B : And don't forget to try some of the local restaurants. The sea food is great here.

A : Yes, it sure is! Last night I had fantastic clams. Say, would you like to join me for dinner tonight?

全訳

A : 今週末までここに滞在するのですが、残りの滞在期間でどこを訪れたらいいか教えていただけますか。

B : ということは、あと2日こちらにいらっしゃるんですね。自然史博物館はいかがですか？とても素敵ですよ。もう行かれましたか？

A : いいえ、まだです。明日の午後に行くことにしますよ。

B : お気に入りになると思いますよ。それから、運河ツアーには参加されましたか？この街を知るのには一番よい方法です。

A : まだですが、参加する価値はあるそうですね。

B：動物園はどうですか。もういらっしゃいましたか？

A：あ、ええ。きれいでした。これまで見た中で最も素晴らしい動物園の1つだと思います。
日本の動物園よりずっといいですね。

B：そして、美術に興味をお持ちでしたら、国立美術館に行かれるといいでしょう。スペイン
絵画の有名なコレクションがあります。

A：はい、旅行ガイドブックで読みました。ここにいる間に行った方がいいですね。

B：それから、地元のレストランもいくつかいらっしゃってくださいね。ここは、シーフード
が美味しいですから。

A：ええ、そうですね。夕べ、とても美味しいハマグリを食べました。そうだ、今晚お食事を
ご一緒しませんか？

注.....

- Why don't you ...? 「…してはいかがですか」
- absolutely 「本当に、絶対に、断然」 < absolute *adj.* 「完全な、絶対的な」
- fascinating *adj.* 「魅惑的な、うっとりさせる」 < fascinate
- You'll love it. 「きっと気に入ると思いますよ。」
- gallery 「画廊、美術館」
- It sure is. 「本当にそうですね。」 この sure は「本当に、確かに」という意味の副詞。どちらかというとアメリカ英語で、イギリスでは certainly を使うことが多い。
- say 「ねえ、ちょっと」相手の注意を引くときに使う。

添削課題

解答

- (1) Andy isn't as old as he looks.
- (2) The shopping mall isn't as crowded as usual.
- (3) I need the information quickly, so please let me know as soon as possible.
- (4) Their house is about three times as big as ours.
- (5) Oceans do not so much divide the world as unite it.
- (6) He cannot so much as take a train by himself.
- (7) There were ten accidents in as many days.

19章 比較2

要点

■ 確認問題1

解答

- (1) 彼は自動車事故の後、生きているというよりむしろ死んでいるという状態だった。
- (2) 私は大勢の中にいるよりも一人でいるのを好む。

■ 確認問題2

解答

- (1) その欠点のために（かえって）それだけ一層好かれる人がいる。
- (2) 口論しなだけの分別を持つべきだ。
- (3) 人は生まれながらに話せるのではないのと同様、生まれながらに人間性を持っているのではない。
- (4) 彼女はその警察官を見るとすぐに逃げた。

問題

【1】

解答・解説

- (1) ア「暑い時は食欲をなくしがちなので、夏の方が冬よりも体重が増えにくい。」〔夏は冬に比べて太らないのだから否定の意味で、また than があるので、比較級のものを選ぶ。less unlikely では「体重が増えそうもないことはよりない」という二重否定で肯定の意味が生じる。〕
- appetite 「食欲」
- (2) イ「彼は数学についてほとんど知らない。ましてや、化学についてはなおさら知らない。」
- still [much] less 「まして…ない」〔否定文に続ける。〕
- (3) イ「我々は期待していなかっただけに、一層うれしかった。」
- all the + 比較級 + because … 「…なのでそれだけいっそう～」〔all は「強調」を表す。〕
- (4) ア「彼は恥ずかしがり屋なので、私はいっそう彼が好きだ。」
- all the + 比較級 + for … 「…のためにそれだけいっそう～」〔ここでは for ～の代わりに on account of ～ (～のために) が用いられている。〕
- (5) 工「彼と同様に私はこの機械を操作することはできない。」
- A ~ no more X than B … 「AがXでないのはBがXでないのと同じだ」
- (6) ア「アメリカ人がファシズムを認めないのは、彼らが共産主義を認めないのと同様である。」
- A ~ not X any more than B … 「AがXでないのはBがXでないのと同じだ」
 - Fascism 「ファシズム、極右的国家主義」
 - Communism 「共産主義」
- (7) 工「私はギターを弾くことより、バイオリンを弾くことの方が好きだ。」
- prefer A to B 「BよりもAの方を好む」〔A, Bには名詞か動名詞が入る。A, Bが不定詞になると、prefer to ~ rather than (to) … の形になる。〕

【2】

解答・解説

- (1) She did it (less from reason than from the sense of) obligation.
- less ~ than … = not so much ~ as … 「～よりはむしろ…」
- (2) Work is (not the object of life any more than play is).
- A is not X any more than B is 「AがXでないのはBがXでないのと同じだ」 (= A is no more X than B is)
- (3) (Light is not less necessary than fresh air to) a healthy condition of body.
- A is not less X than B (is) 「AはBに勝るとも劣らずXである」
- (4) (Not more than a hundred students attended the seminar).
- not more than ~ 「多くても～」 (= at most)

- (5) He is (no less poor at mathematics than I am).
 ○ A is no less X than B is 「AがXであるのは、BがXであるのと同じだ」
 ○ be poor at ~ 「～が苦手である」(⇔ be good at ~)
- (6) He spent (two weeks in hospital but he is none the better) for it.
 ○ none the + 比較級 + for ~ 「～にもかかわらず少しも…ない」
- (7) You are old (enough to know better than to) play such a game.
 ○ know better than to do 「…するようばかではない」(← …するよりよく知っている)

【3】

解答・解説

- (1) no
 ○ no + 比較級 + than ~ 「～より少しも…ない → ～と同じくらい…」
- (2) sooner
 ○ no sooner ~ than … 「～するやいなや…」
- (3) worse [the + 比較級の the は、前〔後ろ〕にある比較の理由を表す語句 (because …) を受けて「それだけ」の意味を表す。]
 ○ think ill [badly] of ~ 「～のことを悪く思う」(⇔ think well of ~)

【4】

解答・解説

- (1) She was (used to nothing less than) the best. [but が不要。]
 ○ be used to ~ 「～に慣れている」 cf. used to do (…したものだ)
 ○ nothing less than ~ 「まさに～, まったく～」
- (2) (It was more than he could do not to laugh).
 ○ it = not to laugh [形式主語]
 cf. That noise is *more than I can bear*. (あの騒音には耐えられない。)
- (3) He does not (notice the difference more often than not).
 ○ more often than not 「通常, たいてい」
- (4) Fears (got the better of her).
 ○ get the better of ~ 「(議論などで) ～に打ち勝つ」

【5】

解答・解説

もし夢で憧れていたものをすべて手に入れるとすれば、手に入れられない時よりもかえって失望するのではないか、と時々考えることがある。

- I wonder whether [if] ~ 「～かと思う」
 ○ dream of ~ 「～を夢に描く」
 ○ fail to do 「…しない, できない」
 ○ even (比較級を強調して) 「さらに, なお」 (= still)

【6】

解答・解説

(1) コンサートで、遅れて来た人々はプログラムのどの曲目でも1曲の演奏が終わるまでは自分の席に着いてはいけないというルール。

(2) 「全訳」下線部(2)を参照。

- there is nothing ~ (比較級) than to ... 「…することほど～なことはない」
- irritating 「(人を) いらいらさせる」
- audience 「聴衆, 観客」
- have ~ *done* 「～を…される」
- disturb ~ 「～を邪魔する」
- search for ~ 「～を探す」 cf. in search of ~ (～を探して, 求めて)
- late-comers 「遅れて来た人々」

全訳

コンサートでは、遅れて来た人々はプログラムのどの曲目でも、演奏中は自分の席まで行くべきでないということが普通はルールとしてある。その曲目が終わった時に、彼らはそうすることを許される。このルールが規定されていない時は、コンサートに遅れたり、またはオペラで歌を歌っている最中に到着したりした人々は、自ら進んでそのルールを守るべきである。(2)素晴らしいオーケストラ演奏や歌の楽しみを、遅れて来た人々の到着や席探し、そして着席によって妨害されたり台無しにされたりすることほど聴衆にとって腹立たしいことはないのである。また、客席の配慮に欠けた遅刻者の身動きによって、注意力と集中力をそらされることほど、演壇やステージの上で演奏している人々にとって、とりわけ歌手にとって、しゃくにさわることはないのである。このように、オペラやコンサートで遅れて到着することは、よい礼儀作法に二重の違反の罪を犯していることになる——演奏者と聴衆に対してである。

注

- shall not : 「禁止」を表す。
- item 「(プログラムの) 曲目」
- conclude ~ 「～を終える」
- observe ~ 「～(規則など)を守る」
- of *one's* own accord 「自発的に, 進んで」
- trying *adj.* 「しゃくにさわる」
- platform 「演壇」
- concentration 「集中(力)」
- inconsiderate 「思いやり〔配慮〕のない」(↔ considerate)
- be guilty of ~ 「～の罪を犯している」(↔ be innocent of ~)

【7】

解答

A.

- (1) T
- (2) F [At first, the UK had to buy tea from China. と述べられている。]
- (3) F [Chinese people first used tea as a kind of medicine. と述べられている。]
- (4) F [Japan is another country which has a long history of drinking tea. と述べられている。]
- (5) T

B.

- (1) It had many colonies there.
- (2) They enjoy green tea.
- (3) The way of making the tea. [The way of processing tea leaves.]

Script

CD 7-8

In the United Kingdom, people drink a lot of tea, but they cannot grow tea trees in their own country. Tea came to the UK in the 17th century. At first, the UK had to buy tea from China, and only the people who had a lot of money could drink it. But in the 19th century, the UK had many colonies in Asia. After that, it was easy to get tea in the UK.

Tea is also popular in China. China has one of the longest histories of drinking tea. Chinese people first used tea as a kind of medicine, but now they enjoy it as a drink, and there are many kinds of Chinese tea.

Japan is another country which has a long history of drinking tea. When tea first came to Japan from China, only some people could enjoy it. The people started to grow tea trees in Japan. Getting tea became easy, and tea became a popular drink. Now many Japanese people enjoy green tea. They also make powdered green tea and enjoy it at “tea ceremony”. “Tea ceremony” is a very special way of drinking tea.

We can get English tea, Chinese tea and Japanese tea from the same type of tree. So, what makes the difference? The answer is in the way of making the tea. We can get various kinds of tea through different ways of processing tea leaves.

全訳

英国では人々は紅茶をたくさん飲むが、自分の国ではお茶の木を育てることができない。お茶は17世紀に英国に入ってきた。最初は、中国からお茶を買わなければならなかったため、たくさんお金を持っている人しか飲むことができなかった。しかし、19世紀に英国はアジアに多くの植民地を持った。その後、英国でもお茶を手に入れるのは簡単になった。

お茶は中国でもたくさんの方が飲む。中国はお茶の歴史が最も長い国の1つである。中国の人々は最初、お茶を薬の一種として使っていたが、今では飲み物として楽しんでいる。そして、中国茶にはたくさんの種類がある。

日本は、お茶の歴史が長いもう1つの国である。お茶が中国から日本に初めて入ってきた時

は、限られた人しかそれを飲むことができなかった。日本でもお茶の木の栽培が始められた。お茶は簡単に手に入るようになり、一般的な飲み物になった。今では多くの日本人が緑茶を飲んでいる。日本人はまた粉末状の緑茶を作り、それを「茶道」で味わっている。「茶道」は非常に特別なお茶の飲み方である。

英国の紅茶も中国茶も日本茶も、同じ種類の木から取ることができる。では、何によって違いができるのだろうか？ 答えは、お茶の作り方にある。お茶の葉の加工処理の仕方によって、さまざまな種類のお茶ができるのである。

注.....

- colony 「植民地」
- powdered 「粉末の」
- tea ceremony 「茶道, 茶の湯」 ceremony は「儀式, 式典」。
- process ～ 「～を加工処理する」

【8】

解答・解説

とりわけ日本で、私はしばしば英語の練習に熱心な学生に呼び止められる。そういう人たちは「失礼ですが、あなたはアメリカのどの地方のご出身ですか？」とささやくように尋ねてくる。生粋のイギリス人に対し、アメリカ人と決めてかかるほど甚だしい侮辱の挨拶はあり得ない。

- with bated breath 「息を殺して、ささやくように」
 - bated < bate 「弱める」
- address no worse insult ~ than ... 「…よりひどく無礼な挨拶をすることはない」
 - address 「呼びかける, 声明を発表する」
- insult 「侮辱, 侮辱的言動」 cf. It is an insult to her. (それは彼女を侮辱するものだ。)
- true-bone 「生粋の」

添削課題

解答

- (1) The more tired you are, the harder it is to concentrate.
- (2) Mary was loved by her parents all the better[more] because she was the youngest.
- (3) I am none the worse for a single failure.
- (4) Food is scarce and more often than not they go hungry.
- (5) Her mood is getting worse and worse.
- (6) Mike was too exhausted to walk, much less run.
- (7) The traffic regulations will affect us more or less.
- (8) You should have known better than to argue with her.
- (9) You must learn to do it for yourself sooner or later.

20章 比較3

要点

■ 確認問題1

解答

- (1) The tournament is important to most of the players.
- (2) I spend most of my spare time reading.

■ 確認問題2

解答

- (1) 書物が表現できるのはせいぜい学説程度のものだ。
- (2) 犬は育てるのが最も簡単な動物の1つである。
- (3) 彼はその少女の無知を最大限に利用した。

■ 確認問題3

解答

日本では、よく集団で人々は行動するが、日本人の旅行の仕方ほどこれを明確に表しているものはない。

問題

【1】

解答

- (1) **イ** 「ミシシッピ川は日本のどの川よりも長い。」〔ミシシッピ川は日本の川ではなく、別の部類に属するものとの比較になるので、other は不要。〕
- (2) **ウ** 「私はその結果が（どうであるか）まったくわからない。」
○ not have the faintest [slightest ; least ; vaguest] idea 「まったく（少しも）わからない」
- (3) **ウ** 「政治家として、チャーチルは私が知っていた誰よりも成功した。」
○ statesman 「政治家」
○ 比較級 + than any ~ 「他のいかなる～より…」
- (4) **エ** 「私が見たその人は、他ならぬ大統領自身だった。」
○ none other than ~ 「～以外の誰でもない → 他ならぬ～」
- (5) **イ** 「私は少しも驚かなかった。というのは、私はそうだろうと十分予期していたからである。」
○ not in the least 「少しも…ない」
○ as much 「(先行する文の内容を受けて) それくらい」

【2】

解答

- (1) never feel happier than 《happiest が不要》〔比較級構文〕
○ 最上級構文 → I feel *happiest* when I finally get the book I have wanted very much for a long time. (同一人物の比較の場合は、最上級に the をつけない)。
- (2) the last person that I want to make friends with 《last を加える》
○ the last ~ (that) … 「…である最後の～ → 最も…でない～」
○ make friends with ~ 「～と友達になる」
- (3) make the most of their opportunity to study in 《in を加える》
○ make the most of ~ 「～を最大限に利用する」
○ opportunity to do 「…する機会」

【3】

解答

すべての国家は、先進国でも発展途上国でも、科学と工業技術に対する投資が高い水準で達成するように最善を尽くしている。

【4】

解答

(1) This is the cheapest way.

別解 This is the least expensive method.

(2) This building is the second [next] tallest in Chicago.

別解 This building is the tallest but one in Chicago.

(3) This is the worst movie (that) I have ever seen.

別解 I have never seen such a bad movie.

(4) The best man makes a mistake [an error]. [この最上級 best には even の意味が含まれる。]

【5】

解答

「全訳」下線部(1)~(6)参照。

解説

(1) No other theory in the field of psychology has been more impressive than those of Sigmund Freud, an Austrian psychoanalyst.

① No (other) S … + 比較級 + than A で「どのような他の S も A ほど…ない；A ほど…な S は～ない」という構文。

② 文構造は No … theory (S) … has been (V) more impressive (C) …となっている。

③ field は「分野」という意味の名詞で、in the field は theory を修飾する形容詞句。

④ theory は「理論」、psychology は「心理学」という意味。

⑤ those は theory の複数形である theories を示す。

⑥ Sigmund Freud と an Austrian psychoanalyst は同格の関係。

⑦ Austrian 「オーストリア (人) の」

⑧ psychoanalyst 「精神分析医；精神分析家」

(2) His theories were nearly as shocking to the world as Charles Darwin's theory of evolution.

① His は Sigmund Freud を指す。

② nearly は「ほとんど」という意味の副詞で前半の as を修飾しており、nearly as … as で「(～と) ほとんど同じくらい…」。

③ shocking は「衝撃的な；ぎょっとさせる」の意味の形容詞でこの文の補語になっている。

④ to the world は shocking を修飾する副詞句。

⑤ Charles Darwin (1809-82) 「チャールズ・ダーウィン」英国の博物学者で進化論者を唱えた。

⑥ theory of evolution 「進化論」

(3) He held the belief that we have inside ourselves, by our nature, a reservoir of aggressive energy, so we have to drain off this energy in order not to explode into aggressiveness.

- ①文の前半は He (S) held (V) the belief (O) …という文構造。
- ② held ～は「～（考えなど）を心に抱く」という動詞 hold の過去形。
- ③ belief は「信念」という意味の名詞。
- ④ that は the belief と同格となる名詞節をまとめる接続詞。
- ⑤ that 節内の前半は we (S) have (V) …, …, a reservoir (O) …という構造。
- ⑥ inside は前置詞で ourselves を従えている。inside ourselves で「私たちの内部で；我々の心の中で」という意味の副詞句。
- ⑦ by nature で「生まれつき；元来」という副詞句だがここでは by our nature という形で have を修飾している。
- ⑧ a reservoir of aggressive energy で「攻撃的エネルギーの貯水池；攻撃エネルギーを貯める池」
- ⑨ so は「だから；それゆえ」という意味で that 節内で使われている。
- ⑩ in order to do は「目的」を表し「…するために」だが、ここでは not を伴い in order not to do で「…しないように」という意味。
- ⑪ explode は「爆発する」という意味の自動詞。
- ⑫ aggressiveness は「攻撃；攻撃性」という意味。into aggressiveness で explode を修飾する副詞句になっている。
- (4) Our kinship with other animals does not mean that if their behavior seems often to be under the influence of instincts, this must necessarily also be the case in humans.
- ①文の前半は Our kinship (S) … does not mean (V) that (O) …という文構造。
- ② our kinship with other animals 「他の動物と我々の親類関係」
- ③ that は mean の目的語となる名詞節を導く接続詞。
- ④ if は that がつくる名詞節の中で instincts までの副詞節をまとめている。
- ⑤ their は other animals を指している。
- ⑥ S seem to be …で「…であるように思われる」
- ⑦ (be) under the influence of ～で「～の影響下に（ある）；～に影響され（ている）」
- ⑧ instincts は「本能」という意味の名詞。
- ⑨ must は「…に違いない」の「推量」を表す助動詞。
- ⑩ necessarily は副詞で「必ず；必然的に」という意味。
- ⑪ this は if 節の内容を指し「行動が本能の影響下にあるということ」を意味する。
- ⑫ case は「事実；実情」という意味だが、S is the case. で「Sがあてはまる；Sは本当だ」などの意味になる。
- (5) There is no more reason to believe that man fights wars because fish or beavers are territorial than to think that man can fly because bats have wings.
- ① There is 構文となっており主語は reason。
- ②さらに、no more ～ than …「…でないのと同様に～でない」の構文。
- ③ to believe は reason を修飾する不定詞の形容詞用法。reason to believe …で「…を信じる理由」
- ④ that は believe の目的語となる名詞節をまとめる接続詞。

- ⑤ fight war 「戦争をする」
 - ⑥ because fish or beavers are territorial は fights を修飾する副詞節。
 - ⑦ territorial は「領土の」という意味の形容詞だが、動物の文脈では「なわ張りを守る；なわばりを持つ」の意味。
 - ⑧ 比較構文では than の前と同形のもが than の後で省略されることが多いがここでは than (there is any reason) to think …のカッコの部分が省略されている。
 - ⑨ to think は前半の to believe と同様に reason を修飾する形容詞用法。さらに think は that 以下の名詞節を目的語にしている。
 - ⑩⑧および⑨と①②を考えあわせ、この文の主構造の和訳は「～と考える理由がないのと同様に…と信じる理由はない；…と信じる理由がないのは～と考える理由がないのと同様だ」となる。
 - ⑪ because bats have wings は can fly を修飾する副詞節。
- (6) Animals are not even as aggressive as some people think — unless the term *aggression* is stretched to include killing in order to eat.
- ① not as … as ～は「～ほど…でない」の意味だが、ここでは even が as を修飾し「～ほど…でさえない」という意味。
 - ② aggressive は「攻撃的な」という意味の形容詞で補語になっている。
 - ③ unless は「…しない限り；…でなければ」という意味の接続詞で副詞節を導く。
 - ④ the term と *aggression* は同格の関係。
 - ⑤ stretch ～「～を広げる；を拡大解釈する」ここでは受動態になっている。
 - ⑥ include ～は「～を含む」という意味で、to include は「目的」を表す不定詞の副詞用法。
 - ⑦ in order to eat 「食べるために」

全訳

(1)心理学という分野におけるどんな他の理論もオーストリアの精神分析家であるジークムント・フロイトの諸理論ほど印象的なものはない。(2)彼の理論はチャールズ・ダーウインの進化論とほぼ同じくらい世界に驚きを与えるものだった。

フロイトによれば、我々人間を思考や行動に導く基本的な2つの衝動がある。こうした衝動のうちの1つが攻撃性であると彼は示した。(3)我々は自分自身の内部に、生まれつき、攻撃的エネルギーの貯水池を持っているので、攻撃へと爆発しないようにこの力を排水しなければならぬという信念を彼は抱いていた。

この信念は多くの主張を用いて多くの者に支持されてきた。その主張の1つは、動物は攻撃的であり、人間は進化の上で動物の子孫であるがゆえに我々もまた攻撃的だというものだ。

アメリカ人の著作家であるアルフィ・コーンと科学者たちはこの考えを否定した。彼はある人類学者の次のような言葉を引用している。「(4)我々が他の動物と親類関係であるからといって、動物の行動が本能に影響されているように思われることが多いとしても、このことが人間にも必然的に当てはまるに違いないということを意味はしない。」コーンはまた、次のように記したもう1人の権威者の言葉にも触れている。「(5)コウモリが翼を持っているからといって人間が飛ぶことができると考える理由がないのと同様に、魚やビーバーがなわ張りを守るから人間が戦争をすると信じる理由などない。」

コーン自身も次のように記している。「(6)『攻撃性』という言葉が、食べるために殺すことを含むように拡大解釈しなければ、動物は一部の人々が思っているほど攻撃的でさえない。組織化された集団による攻撃性というものは他の種ではまれであり、実際に存在している攻撃性も、一般的には、動物がたまたま暮らしている環境の機能なのだ」と。

添削課題

解答

- (1) I checked my paper most carefully but didn't notice the mistake.
- (2) Most Japanese eat rice at least once a day.
- (3) Nothing is more precious than time.
- (4) I don't trust her in the least.
- (5) Joe is the last person to be accused of robbery.

E1JS/E1J

高1 選抜東大英語

高1 東大英語



会員番号	
------	--

氏名	
----	--

不許複製